

2025年度 (令和7年度) 学校評価自己評価表

済美 中学校区

校番 18

福山市 瀬戸小 学校

最終更新日

2025年(令和7年)4月18日

I 福山市

ミッション

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。

ビジョン

各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	〇課題発見・解決力 〇コミュニケーション力 〇他者とかかわり合う力・心
校区共通のミッション・ビジョンを持ち、各校の課題に取り組まれています。「主体的、対話的で深く確かな学び」に取り組まれ、学び力、成長する力の授業づくりを大切にされています。他者とかかわりを重視され、不登校児童生徒への取組みも評価できます。今後さらに、児童生徒の活動状況等を広く情報発信し保護者や地域との情報共有に努め、保護者、地域を巻き込んだ教育活動に取組むとともに、各校の児童会・生徒会の交流の場が必要と考えます。	〇自己有用感、自己肯定感が低い児童・生徒において、学ぶ意欲の向上に課題がある。 〇学校や地域の課題を踏まえて、何が必要なのか考えたり、実際に解決するために行動化できる児童生徒が少ない。 〇相手意識を持った行動が不十分な児童・生徒が多い。 〇長欠・不登校の児童・生徒数が増加傾向にあり、支援が必要である。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	〇課題発見・解決力 〇コミュニケーション力 〇他者とかかわり合う力・心 ①自らの目標に向かって努力し、チャレンジしている。 ②場面や目的に応じた豊かな表現力を身につけている。 ③他者とかかわり合いながら共感的人間関係を築き、共にによりよく生きようとしている。 〇「選択・決定」「対話の充実」「振り返り」をキーワードに授業づくりを進める。 〇「主体的、対話的で深い学び」のある授業づくりの研修 〇児童会・生徒会活動の活性化による規範意識と共感的人間関係の育成

III 自 校

ミッション	育成する力 資質・能力	〇課題発見・解決力	〇コミュニケーション力	〇他者とかかわり合う力・心
「子ども理解・尊重」を基盤に、学び・学級・学年づくりを進め、子どもたちの姿を通して、保護者・地域とつながる瀬戸小学校 ～「安心感・自己効力感・思いやりの心」を育みながら～	めざす子ども像 校内は、当該学年のB規準 ↓ A ↓ S ↓ VS 小学校 1・2年 3・4年 5・6年 1年 中学校 2年 3年	自ら問い「なぜ・どうして・どうすれば？」等をもち、考えたり・話し合ったりしながら、ゴールに向かって粘り強く学んでいる。	自分の周りの人たちの言葉を、目線を含ませ、うなずき・つぶやき(「へえ～・ほお～・なるほど・すごいね!」等)ながら、聴いている。	自分の周りの人たちの思いや、そう思う理由に気付き、自分の思いを「はい・ありがとう・ごめんなさい」等で表したり、誰かの役に立とうとしたりしている。
学校教育目標		自らの考えを、相手に分かりやすく(主・述の明示、結論⇒根拠、例え話の挿入、図表や絵・写真・ホワイトボードの活用、声の大きさ、間の取り方等)伝えている。	自分の考えを、相手に分かりやすく(主・述の明示、結論⇒根拠、例え話の挿入、図表や絵・写真・ホワイトボードの活用、声の大きさ、間の取り方等)伝えている。	相手の立場やその時の思いを、自分に置き換えて想像し、共通点や相違点を見出しながら、折り合いをつけ歩み寄ったり「そうか・そうなんだ」等、励ましたり「いいしょにやろう」等しようとしている。
自ら考え、学び合い、ともにによりよく生きる子どもの育成		学び続ける中で、学習内容や学び方等を振り返りながら、次の目標や課題を自ら見出し、見通しをもって学びに向かっている。	相手の考えを、自分の考えと比べたり関連付けたりしながら聴き、問い返したり、整理しなおしてより明確に伝えている。	多様な他者とかかわりを通して、それぞれの良さやちがいを見出し、受け入れながら、助け合ったり、高め合ったりしようとしている。
現 状		学びの過程や結果から気付いた・考えたことと、その意味・価値・つながりを振り返り、見出した次の目標や課題を、見通しを立てて情報を収集・整理・活用しながら(他者を巻き込んで)達成・解決している。	自分の考えを、多様な他者に分かりやすく伝えながら、質問(反論・同意)・説得・納得を繰り返し、考えを広げ・深めるとともに、まとめたり(合意形成)、新たな発想を生み出したりしている。	集団(地域、学校・学年・学級等)活動における自らの役割とその目的・価値を見出し、多様な他者と認め合い・許し合い・補い合いながら、責任を果たそうとしたり、貢献しようとしていたりしている。
〈児童生徒〉 〇授業観察の様子や児童アンケートからは、児童が学びに向かう基盤づくりは概ねできているが、粘り強く学ぶ点に課題がある。 〇全国学力テスト、標準学力テストの結果は全国平均を大きく下回っており、基礎学力の定着が不十分。特に国・算において、問題を把握する力、論理的に考えて書く力に課題がある。 〇自分は集団の中で役に立っているという自己有用感を高めつ、自己効力感の向上につなげる取組が必要である。		自己認識・自己表現・自己実現 自らの考えをもち、伝え合い、深め合う学びづくり ～主体的な学びにつながる「問い」の形成を通して～		
〈授業〉 〇児童が「友達の意見を聞きたい」「自分の考えを伝えたい」と思うような、「主体的な学びにつながる問い」について、教材研究や授業研究を行うことで、全教員で共通の課題意識と認識をもち、単元構想・授業展開の工夫を図る。 〇子どもたちが集団において、素直な「思い・考え・問い」を出し合い、認め合い、生かし合える支持的風土の醸成を図っている。	研究	テーマ	①「単元を貫く問い」を意識して課題発見解決学習を展開する ②授業コーディネート力向上のための研修を実施する ③適正な見取りで指導と評価の一体化を図り、学習をあきらめる児童を作らない。	
	めざす授業の姿	内容等	「自ら問い(なぜ・どうして?)を持ち、(既習・経験・他教科等とつなげて)考えている」「考えたことなどを、伝え合い・聴き(訊き)合いながら、広げたり・深めたりしている」「(見通しを立てたり、振り返ったりしながら)粘り強く学んでいる」 →『分かった・できた・面白い!』	

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価							福山市立		瀬戸小		学校				
年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標 児童・職員アンケート（6⇒11月） 保護者アンケート（7⇒12月）予定	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	課題発見・ 解決力の育 成と基礎学 力の向上	★	新規	単元構想・授 業展開の工夫 を図り、学び を広げ・深 め、基礎学力 を伸ばす。	○基礎学力の向上のための取組 ①「単元を貴く問い」を意識して課題発見解決学習を展開する ②授業コーディネート力向上のための研修を実施する ③適正な見取りで指導と評価の一体化を図り、学習をあきらめる児童を作らない。 ④全教員が「チャレンジ単元」を設定、授業公開してお互いに見せ合う。 ○家庭学習時間を把握する調査及び家庭連携を進める。	○標準学力調査において昨年度（R7.1）における全国比マイナス差を半減させる ○児童アンケート（肯定的評価85%） ①自ら問いをもち、考えている。 ②自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりして、新たな考えや疑問をつくっている。 ③最後まであきらめず、粘り強く学んでいる。 ○家庭学習に取り組む時間を、年度当初との比較で30%増									
4	豊かな心の 育成		継続	安心感・自己 効力感、思い やりの心を引 き出し、行動 化できる子ど もたちを育て る。	○児童会活動、委員会活動等のめあてや計画を子ども自身が話し合って決め、それぞれの役割を明確にして成功体験を積みせる。 ○「学活・道徳・行事」と日々の学級活動を関連付け、積極的な相互評価を通して、自己肯定的感を高める。 ○連続欠席や遅刻の未然防止および初期対応に関する取組や支援について、チームで即時、継続して行う。	○児童アンケート（肯定的評価85%以上） ①学級で、安心して過ごせている。 ②学校や学級の役に立っている。 ③出会った人の心に届く、あいさつをしている。 ④自分の良い所を発見できる。 ○連続欠席・遅刻数の昨年比減少									
5	運動が好きな 児童の育成		継続	「運動すること は楽しい・面 白い」と実感 できる学習 活動と評価を 工夫し、運動 が好きな児童 を増やす。	○体育の授業や外遊びを通して、「多様な他者とよりよく関わることの楽しさ」や「体力・技能の向上による喜び」を実感できるよう、指導・支援・評価の方法を見直す。 ○体育レク委員会を中心に次に取り組む。 ①規則正しい生活習慣の定着の呼びかけを行い、生活習慣の向上を図る。 ②授業や家庭で取り組める運動を全校に紹介する。	○児童アンケート（肯定的評価90%） 「友達と関わり合って運動することは楽しい。」 ○新体力テスト 「上体起こし」で自己ベスト更新90%以上（5月⇒再テスト12月） ○健康ウィーク3項目達成率80%以上									
5	信頼される 学校づくり の推進		継続	学びづくりに 向かう時間を 生み出し、子 どもの姿で保 護者・地域と つながること で、教職員の やりがいを高 め、学校信頼 を得る。	○保護者・地域とつながるため、子ども達の学びの姿をHP等で発信する。 ○「学びづくり」に向かう時間を生み出すために次に取り組む。 ①生成AIの活用法研究、積極活用で教務業務、学級事務の時間短縮を図る。 ②働き方の見通しを立てる（月・週別）	○保護者アンケート（95%以上） 「授業等を通して我が子は成長している」 ○職員アンケート（90%以上） ①働き方の工夫・改善を行うことで、「学びづくり」に向かう時間を生み出している。 ②「仕事にやりがいを感じている」 ○時間外勤務時間月45時間以上の教職員が月平均1.0人以下									

[プロセス評価の評価基準]	
評価点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]	
評価点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]	
評価点	評価基準
5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。